

## IV 資料紹介

### 倉敷市内の有茎尖頭器

藤原好二

平成4年度に発掘調査を行った王子が岳南麓遺跡では、有茎尖頭器3点、神子柴型石斧1点とまとまった数の縄文時代草創期の遺物が出土している。平成7年度に実施した王子が岳南麓遺跡調査成果展において、関連資料として市内出土の有茎尖頭器を集めてみたところ、思ったより数多く発見されていることがわかった。成果展期間中、これらの資料を実測する機会を得たので今回紹介することにした。

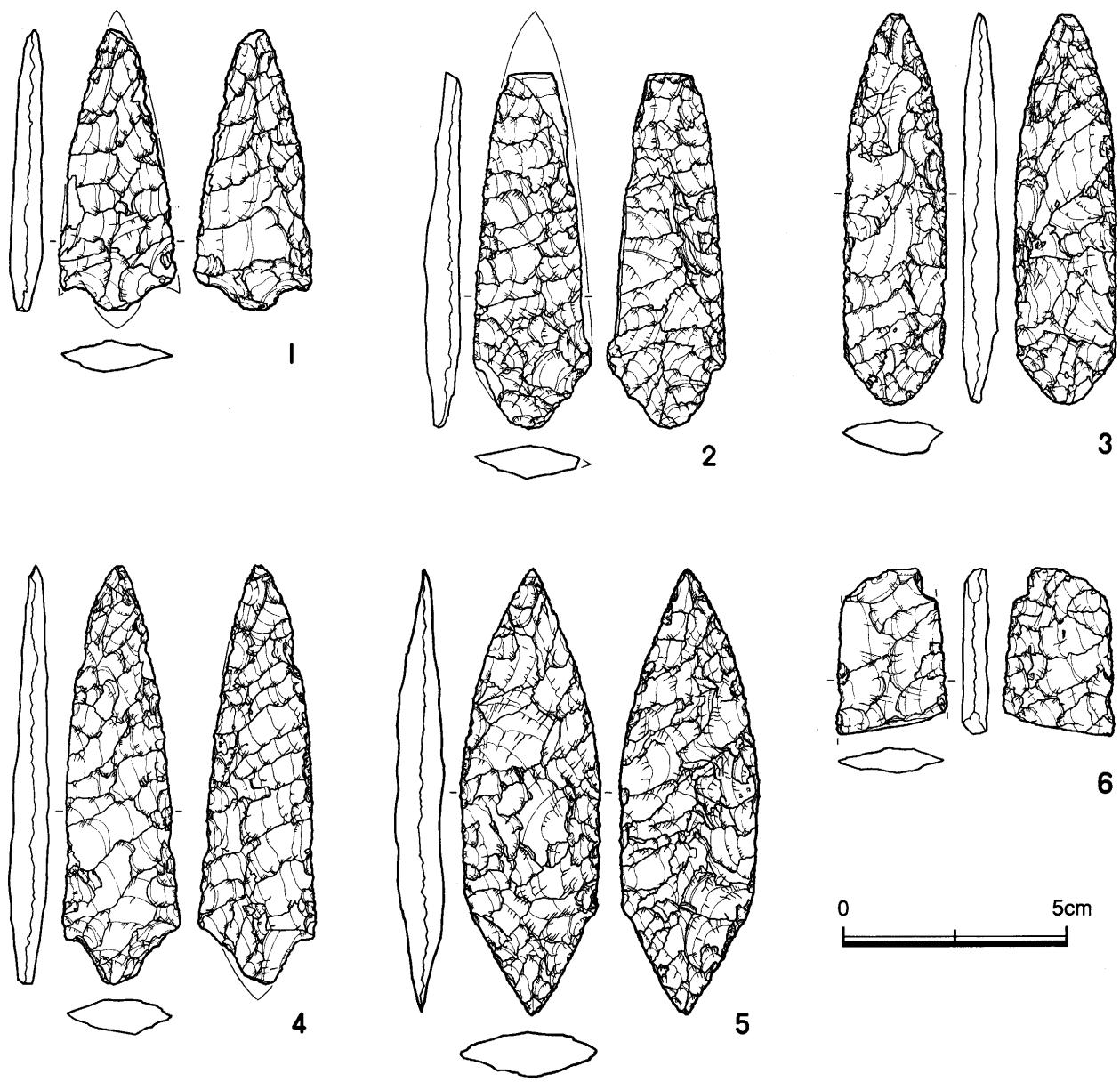
紹介する6点は全て安山岩製である。1・2は玉島黒崎の中津貝塚採集とされるものである。両方とも個人所有の品であり、採集時の詳細は不明である。1は先端部、茎部、かえりが欠損している<sup>(1)</sup>。2は先端から右側縁にかけて衝撃剥離があり、先端と右側の刃部が失われている<sup>(2)</sup>。3は瀬戸中央自動車道児島・坂出線陸上ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査によって山際紫山遺跡<sup>(3)</sup>から出土した。弥生時代の住居跡にまぎれこんで発見されたものである。図は今回新たに実測したものである。4は庄地区のは場整備に伴う発掘調査によって矢部伊能軒遺跡から出土した。茎部が欠けている。5は児島唐琴の琴浦小学校の裏山の向山遺跡<sup>(4)</sup>で採集されたものである。採集時の詳細は不明である。6は山陽新幹線建設に伴う発掘調査によって二子御堂奥遺跡から出土したものである<sup>(5)</sup>。先端、基部ともに失われているが、斜状並行剥離などの特徴から有茎尖頭器と考えられる。

市内で有茎尖頭器は10点以上発見されているが、今回の企画展ではその約半数を集めることができた。展示した資料は大きくて見栄えがよいため、王子が岳南麓遺跡出土の展示品の影がやや薄くなってしまったのは残念だった。しかし有茎尖頭器は形態的に石槍としての機能がわかりやすく、見学者に好評であったのは幸いであった。

番号	出土遺跡	所在地	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	所有・保管
1	中津貝塚	玉島黒崎	(6.31)	(2.66)	0.76	12.2	個人
2	中津貝塚	玉島黒崎	(7.93)	(2.69)	0.83	17.6	個人
3	山際紫山遺跡	児島上の町	8.69	2.27	0.85	19.4	岡山県古代吉備文化財センター
4	伊能軒遺跡	矢部	(9.40)	2.66	0.85	19.8	倉敷埋蔵文化財センター
5	琴浦向山遺跡	児島下の町	9.93	3.16	1.11	32.1	倉敷考古館
6	二子御堂奥遺跡	二子	(3.71)	(2.51)	0.63	7.3	岡山県古代吉備文化財センター

有茎尖頭器計測表

( )内は現存値



有茎尖頭器実測図 (S=2/3)

なお、王子が岳南麓遺跡調査成果展を開催するにあたり下記の方々・機関にお世話になった。  
末筆ながら記して感謝いたします。

岡山県古代吉備文化財センター、岡山県立博物館、倉敷考古館、宇垣匡雅、原田力、宗澤弘

- 註(1) 現在、倉敷市玉島歴史民俗海洋資料館に展示している。
- (2) 永山卯三郎『倉敷市史 第一冊』名著出版 1973年
- (3) 「本州四国連絡橋陸上ルート建設に伴う発掘調査Ⅱ」『岡山県文化財発掘調査報告71』岡山県教育委員会 1988年
- (4) 『倉敷の古代』倉敷考古館 1972年
- (5) 資料の存在については宇垣匡雅氏にご教示いただいた。